

## 卒業生を訪ねて

英語・英語圏文化専攻 教員 前田隆子

2006年12月21日に、英語・英語圏文化専攻2年の**小林まりなさん**と**高坂枝里子さん**が、本学を卒業後東京女子大学・現代文化学部・言語文化学科に編入した**浅野未清さん**(現在4年生)を大学に訪ね、いろいろなお話を聞きました。ここではそのインタビューの様子を紹介します。在学生の二人も本学卒業後に四年制大学の三年次編入が決まっているので、学業や就職活動など先輩の経験したことを直接聞くことができるのを楽しみにしていたようです。

**小林(以下 K)**「今日は宜しくお願いします。まずはじめに、東京女子大学の良いところは何かですか？」

**浅野(以下 A)**「1番は学生が優しいということです。女子大なので入学前は派手な学生が多いかなと思っていましたが、実際は良い意味で落ち着いた学生が多かったです。それから吉祥寺駅が近いので、地理的に恵まれた環境にあると思います。」

**高坂(以下 T)**「入学前と後で四年制大学に対するイメージは何か変わりましたか？」

**A**「入学前は四大の先生方は保守的な考えを持った方が多いというイメージがありました。しかし実際は先生方の考え方は多種多様で、必ずしも保守的では無く、現在は好印象を持っています。」

**K**「四大に編入して良かった点は何ですか？」

**A**「1番良かったことは分野を越えて学べるということです。私は社会学系のことを学びたいと思っていたので、卒論は言語学だけでなく社会学や心理学の分野にまで及んで研究しました。」

**T**「では大変だったことはありますか？」

**A**「思っていたよりも単位が認定されなかったということです。例えば第二外国語はフランス語をカリタスで4単位履修していたので大丈夫だと思っていましたが、時間数が足りず認められませんでした(今は大丈夫だそうです)。だから今第二外国語として韓国語を履修しています。」

**T**「私は編入してから友だちができるかどうか心配なのですが…」

**A**「編入してからすぐにゼミが始まるので、そこで友だちはできます。また二年次ゼミも履修しなければならないので、学年を越えて友人を作ることができます。心配ないと思いますよ。」

**K**「卒論ではどんなことを研究したのですか？」

**A**「イギリスの新聞や雑誌の広告欄には個人的に『恋人募集』を掲載する人がいます。そこには自分の容姿やキャリアなどのアピールポイントが書かれており、それらから日本人には考えられないような積極性が感じられます。私はこのことに強い興味を持ったので、掲載内容から読み取れる男女の考え方の違いについて研究しました。卒論は思ったほど大変ではなかったです。」

**K**「就職活動はどうでしたか？」

**A**「卒論より大変でした。私の場合、メーカーの総合職を希望していて、就職活動をその範囲だけでしていました。実際は事務職とは違い総合職は狭き門だったので思うように決まりませんでした。結局は行きたいところに行けたので良かったです。」

**T**「就職活動をする上でのアドバイスをお願いします。」

**A**「就きたい職業だけにとどまらず、いろいろなジャンルで活動してみると良いと思います。興味が無いからとか、どんなことをしているか分からないからと言って敬遠するのではなく、少しでも触れてみましょう。もしかしら自分合った職業が見つけれられるかもしれません。」

**K・T**「ありがとうございました」

### 小林さん・高坂さんの感想:

先輩を訪ねる前の大学に対してのイメージは敷居が高くて、編入した学生には少し居心地が悪い空間かと思っていましたが、実際に先輩の話を知ったりキャンパス内を見学したりしてそんなことはないと感じ安心しました。浅野先輩、ありがとうございました。



〔東京女子大学・本館前にて〕  
インタビューアーの二人

〔食堂でのインタビュー〕  
左から浅野さん、  
高坂さん、小林さん



Whilst students are studying abroad at our sister colleges, they always have unforgettable experiences. Here are reports from two of our scholarship winners.

Nao (left) with her friends



## 【 JCCC 】

Nao Furusawa

I studied abroad from 2005 to 2006 at Johnson County Community College in the U.S. I was really struggling with a lot of paper and homework. However, I really enjoy my life in the U.S. I want to share my experience with you.

JCCC has some club activities, and I belonged to International club. In JCCC, there are a lot of international students, and some students belonged to this club. Not only these students, but also American could involve with. One day, this club provide me(us) special activity, which is called "International Retreat." This is for relaxing from daily life, which is busy with homework and something burden. Moreover for enjoying learning the differences each country has. I was kind of tired and needed a break from studying. I decided to take part in this activity. I stayed at some special place, which is located 30 minutes from college, and spent 3 days with another student. I shared my country's custom with them, tried some snacks from another country, and danced Salsa and something from China with everyone.

As I said before there are also American, I shared the room to stay with an American girl. I talked a lot of things with her, like personal things. She looked interested in my country. I was really happy to feel it.

During staying there, I felt there are a lot of differences. Also, I felt how wonderful the differences are, because we could share these things. I could enjoy and learn something rather than facing with computer and finish up my homework.

## 【 A Trip to Oxford 】

Erika Maruyama

I went to Oxford with my friends on 11th November. It was a school trip. I visited Christ Church where Harry Potter films were shot. My friends and I really like Harry Potter films. We were excited at those sights. I felt we were at Hogwarts. We talked about the films while we were walking around there. We found the corridor which is in the film as well as the hall. The church was beautiful. There was a lot of stained glass on the walls. That day was cloudy, so we could not see the glass through sunshine. I like old English buildings which have stained glass. I have never seen those in Japan. English buildings and Japanese buildings are completely different. This makes a strong impression on me. I really liked Oxford and hope to go there again.

## 「カリタス女子短期大学市民講座 2006 - 日本人と英語 Part 」について

英語・英語圏文化専攻 教員 北川宣子

カリタス女子短期大学では、主に横浜市在住の方々を対象に市民講座を開講しています。以前は横浜市教育委員会との共催でしたが、現在は青葉区との共催で、「青葉区大学リレー講座」という名称で実施しています。毎年、当短期大学の三つの専攻(英語・英語圏文化専攻、仏語・仏語圏文化専攻、コミュニケーション文化専攻)がメイン・テーマを掲げ、各専攻の教員の他に様々な分野の講師をお招きし、9月～12月の土曜に8回シリーズで行われます。

2006年度は、英語・英語圏文化専攻が企画しました。3年前に「日本人と英語」のテーマで実施し、好評でしたので今回も引き続き、「日本人と英語 Part 」という総合テーマで、英語教育、宗教、映画、文学、文化、国際経済社会などを通して日本人と英語との関わりを探りました。講師は本専攻の専任教員に加え、兼任講師の花岡蔚先生、経済同友会の代表幹事であり、日本 IBM(株)の代表取締役会長でいらっしゃる北城格太郎氏、そして東京工科大学の石塚美佳先生によるものでした。20代から70代の幅広い年齢層の方々を受講され、また複数の在学生も出席しましたが、他にも懐かしい卒業生の顔ぶれが見られたのも嬉しいことでした。ここにその講座内容と、受講学生の中の一人の感想をご紹介します。

月日	講座題目	月日	講座題目
9月23日	日本の英語教育 —小学校英語教育を中心に— (前田隆子)	10月28日	トーマス・マートンとその弟子バジル・ペニンントン及びトーマス・キーティングにみる東洋的霊性の志向 (浦野洋司)
9月30日	日本人移民とことば —アメリカに渡った日本人たち— (北脇実千代)	11月4日	国際社会で活躍できる日本人を目指して (北城格太郎)
10月7日	英米文化に触れる —映画と日本人の価値観— (石塚美佳)	11月25日	日本人の心、英語の心 (花岡 蔚)
10月14日	シェイクスピア翻訳 —女性の視点から— (伊藤知子)	12月2日	日本人にとっての“英語”とは？ - そこから考える英語学習法 - (北川宣子)

・北城格太郎氏の講演『国際社会で活躍できる日本人を目指して』を聞いて

英語・英語圏文化専攻 1年 安藤優子

北城氏の講演から学んだことは、自ら学ぶという意思を持つことの重要性です。北城氏は、高校時代に英語を猛勉強し、さらに IBM 入社後アメリカ留学を経験されました。それに関わらず、今でも気になる英単語を見つけると、お財布に入れているメモ用紙に書き留めておくそうです。いくつになっても、どんなに英語がしゃべれるようになって、常に学ぶ心を忘れず、前向きな心構えをお持ちの北城氏を見て、私の英語学習に対する思いはより一層強いものになりました。

次にこの講演から学んだことは、きっかけを活かして挑戦することの大切さです。きっかけは先生の言葉でも、雑誌の見出しでも何でも良いのです。きっかけを掴み、努力する、そのような積極的な姿勢が大切だということもよくわかりました。

最後に、北城氏がおっしゃっていた論語を紹介したいと思います。「学ぶに暇あらずと謂う者は暇ありと雖(いえど)も亦学ぶ能わず」

今回の講演を聞いて、自ら行動し、学び続けることを忘れず、ポジティブに生きる力を得ることが出来ました。努力を続ければ、自分の得意分野を持つことが出来ます。これからも英語の勉強に一生懸命励み、情報のアンテナを張り、さまざまなことを吸収して生きていきたいと思ひます。

## 先生が学生だった頃

このコーナーでは、カリタス女子短大の先生方がどのような学生時代を送ったのかを、学生によるインタビュー形式でお届けします。今回のゲストは、非常勤講師で「国際関係論」をご担当の吉濱精一郎先生です。インタビューは、英語・英語圏文化専攻1年の松橋花子さんです。



吉濱先生

Q1:先生は大学で何を専攻されましたか？

A1:法学部で勉強していましたが、途中で文学部・哲学科に移り、大学院では政治学研究科で学びました。

Q2:大学時代に興味があったことは何ですか？

A2:私は好奇心が旺盛なのでいろいろなことに興味がありました。

まず本を読みました。中でもドストエフスキー、トルストイ、スタンダールなどの大作をたくさん読みました。今でもトイレで読む本、お風呂場で読む本、通勤の電車で読む本、机に向かって読む本などいくつかの本を並行して読んでいます。

次に映画も大好きでたくさん見ました。特に「男の争い」や「七人の侍」、「カメルン故郷に帰る」がとても印象的でした。

それから旅をすることも大好きでした。今で言うバックパッカーで、ユースホステルに泊まりながら北海道から九州まで日本各地に行きました。最後に塾の講師や歌舞伎の裏方、ガードマンなど、様々な種類のアルバイトをしました。アルバイトでは本などを通してとは違うもの(人間関係など)をたくさん学ぶことが出来ました。

Q3:大学時代の夢は何でしたか？

A3:大学時代はとにかく外国に行ってみたかったです。特に興味があったアメリカと、中島敦が好きだったので中国へ行ってみたいと思っていました。机の手の届く所に本を置いておく程、今でも中島敦が好きです。

Q4:学生のうちにやっておいた方が良いことは何ですか？

A4:若いうちに海外に出ることです。それからきちんと授業にでて学問を修めること、本を夢中で読むこと、アルバイトをして人間関係を学ぶことです。

Q5:生まれ変わっても同じ職業に就きたいですか？

A5:はい、もちろんです。私はアメリカとオーストラリアで教師をした経験があり、今日本で教えていて、教育という分野で国際比較をすることができました。

そして戦中・戦後のつらかった経験が今に生きていて、たとえば途上国の支援時にその国の人たちと同じ目線になって仕事を取り組むことができました。だからもし生まれ変わってもこのような経験を活かすことの出来る仕事にやはり就くと思います。

Q6:カリタスの学生にメッセージをお願いします。

A6:映画や本、旅、人と関わることを通して、社会に対しての考え方の視野を広く持ちましょう。そして複眼的思考、つまり自分と違った思考で物事を考えてみましょう。また人間関係を作るときには相手に対して想像力を働かせましょう。



スターバックスコーヒージャパンHPより  
<http://www.starbucks.co.jp>

スターバックスは、上記の2つの店より歴史があり、創業されたのは、1971年のことでした。創業者は、シアトル在住のジェリー・ボールドウィン、ゴードン・パウカー、セヴ・シーゲルの3人でしたが、その創業には別のコーヒーショップが関係していました。オランダから移住してきたアルフレッド・ピートが開いた店「ピーツ・コーヒー」です。ピートは、アメリカに移住した際、アメリカのコーヒーのまずさに驚き、自ら味にこだわった店を立ち上げました。ボールドウィンらは、スターバックスを創業する前に、コーヒー・ビジネスを学ぶため、またこれまでのアメリカにはない味を模索するため、サンフランシスコ近郊にあるピーツ・コーヒーで働いたのです。それらの経験を積んで創業されたスターバックス1号店は、コーヒー豆を売る専門店で、当初はピートも自分が炒ったコーヒー豆を提供して協力しました。

そのように始められたスターバックスが現在のようになっただけでなく、現最高経営責任者であるハワード・シュルツが入社してからです。ピーツ・コーヒーのエピソード同様、そこにもヨーロッパの影響がありました。シュルツは、イタリアのミラノで人気のエスプレッソ・バーにヒントを得て、コーヒー豆だけでなく飲み物も売るといったビジネスチャンスを見出したのです。シュルツのアイデアは成功を収め、コーヒー豆の専門店だったスターバックスが生まれ変わることになりました。

現在世界37か国に店舗を構えているスターバックスは、世界中に拡大していったマクドナルドを思わせるような勢いですが、国外最初の出店場所は、東京の銀座でした。1996年8月のことです。アメリカから入ってくるものを受け入れやすい日本の市場が、世界進出への足がかりとして期待されて選ばれたということでしょうか。太平洋を越えて日本に渡ってきた「シアトル系コーヒーショップ」が、今後日本でどのようにビジネスを展開していくのか楽しみなところです。

## サークルの輪

英語・英語圏文化専攻 教員 前田 隆子

今回紹介するサークルは、「軽音部」です。部長の英語・英語圏文化専攻・1年・武本久美さんからメッセージをいただきましたのでご紹介します。

「私たちはサークルメンバーが揃う空き時間を使って週2回ほど活動しています。新入生歓迎会、あざみ祭(大学祭)、クリスマス会に向けて、初心者同士手探り状態ですが楽しくやっています。音楽好きの友達がほしい、新しい趣味を見つけたいという人は是非一緒に活動しましょう！」

Kaleidoscope 第24号はいかがでしたか? 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を [maeda@caritas.ac.jp](mailto:maeda@caritas.ac.jp) までお寄せください。

2007年1月15日発行

発行責任者: 北川宣子

編集協力: 東京工科大学

コンピュータサイエンス学部 塙 竜太郎

## カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>